

「学年や学科を超えてつながる」名寄市立大学バドミントンサークル

「つながり」を作ってくれる場にしたいと思ひ活動をしていきます。

私がこのサークルに参加したきっかけは、兄からの誘いでした。見学に足を運んだ際、多くの先輩が私と話をしてくださり、すぐに入部を決めました。このサークルの魅力は、自身の成長ができることにあると思ひます。

練習では、つながりを作るためにダブルスをメインで行なっています。その中で、ペア同士の会話を多くすることで、コミュニケーション能力や協働力が育まれます。

また実際に、私も初めは話すことが苦手だったのですが、今では自分から積極的に多くの人に話しかけることができるようになりました。さらに、学科や年齢を超えたつながりを作ることができました。練習は週に2回実施し、学業の合間のリフレッシュの時間

となっています。

それと同時に、多くの人と関わりを持つ良い機会となっています。私は、サークル長としてこの面に力を注いできました。それは先輩と関わりを持つことで、授業の情報やアルバイトの情報を受け取ることができ、先輩は後輩と関わることで責任感を育むことができるといった利点が双方にあるためです。

サークルは、高校までの部活とは異なり、自由が多くあります。参加する日を自分で決め、プレッシャーから解放された空間で、心からスポーツを楽しめます。大学生活には、自由という良い点と悪い点の双方が混在しています。その中で、悩み疲れが溜まり、それが辛さにつながること多いです。それでもサークルに行けば誰かがいて、話を聞いてくれます。

コートの中では学

年も立場も関係なく、皆が真剣にバドミントンというスポーツに取り組みます。このサークルが、

く、皆が真剣にバドミントンというスポーツに取り組みます。このサークルが、

大学生活のリズムとなり誰かにとっての



「居場所」になっているのです。

私は、これからもこの「居場所」を大切に守っていきたいと思っています。

サークルに入っていないければ出会えなかった人たちは、数えきれないほどいます。そんな出会いをくれたこのコミュニケーションこれからも関わり続け、バドミントンを通して、さらに新しいつながりを広げていきたいです。